



公立芽室病院 だより 第74号

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。

糖尿病療養指導士がお手伝いします

糖尿病療養指導士

糖尿病の治療には患者さんの自己管理が最も大切です。糖尿病療養指導士は医師と共に糖尿病を治療(療養)指導する医療スタッフのことです。糖尿病とその療養指導に関する幅広い専門知識をもち、患者さんの生活を理解し、適切な自己管理が行えるよう援助する役割を持つ看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士に日本糖尿病療養指導士認定機構が与える資格です。

います。糖尿病の初期は痛くも痒くもありませんが、早い段階から高血糖による血管のダメージを防ぐ必要があります。糖尿病と診断されても、特に具合が悪くないときは、ついつい生活習慣の見直しをさぼりがちですが、ちょっとした油断が毎月の血液検査に結果として現れます。診察室では聞けなかったことをさりげなくアドバイスするのが糖尿病療養指導士の仕事です。

糖尿病は、インスリン作用の不足に基づく慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群です。高血糖の状態が長く続けば、特有の合併症が出現します。網膜、腎臓、神経など多くの臓器に機能、形態異常をきたします。その他にも動脈硬化や認知症、ある種のガンの発症率を上げるともいわれて

糖尿病療養指導士は、糖尿病の正しい知識を持ってもらえるよう援助します。患者さんの個々の状況を理解し、食事療法、運動療法、薬物療法、ライフスタイルの調整を正しく実行できるようお手伝いします。糖尿病は、自己管理行動がとても大切です。病態が安定し、合併症の発症や悪化を予防できるよう取り組んでいきます。

こんにちは!

糖尿病療養指導士の蔵光です

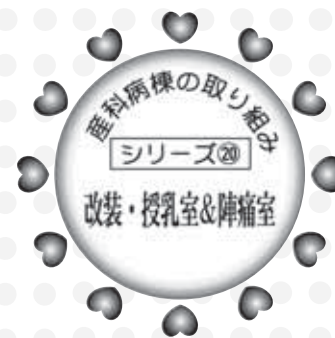
糖尿病は今や日本国内で2,000万人(全国民の5人に1人)以上が持っている国民病です。“ありふれた病”ではありますが放っておくには恐ろしい病気です。少しでも皆さんのお手伝いできればと思っておりますのでいつでもご相談ください。内科外来でお待ちしています。

ロビークンサート

開催のお知らせ

創立5周年を迎えた芽室合唱団の皆さんが今年も病院でコンサートを開催していただきます。当日は一般の方の来場も大歓迎です。みんなで一緒にうたのプレゼントを聴きましょう。

とき 12月17日(木) 午後6時～
ところ 公立芽室病院 1階ロビー



9月に授乳室と陣痛室を装い新たにリニューアルしました
今回は改装のポイントをお知らせします

授乳室

以前は沐浴室の隣に長椅子があるだけの寂しい場所でした。仕切りがないため、出入りの度にその場がすべて見えてしまっていました。3人座ればギュウギュウで授乳室とはちょっと言い難い(?)場所でした。

今回、未熟児室と新生児室が一つの部屋となり、その分授乳室という新たな空間ができました。部屋の中は土足禁止でカーテンで仕切られています。家庭に近い雰囲気です足を伸ばしてゆったりとお母さんたちに授乳してもらいやすくなりました。3人掛けの長椅子も3つに増えて収容人数もパワーアップしました。



頻回授乳で頑張るお母さんたちがお互いに励ましあっている姿や、退院後の2週間健診の場として顔を合わせたお母さんたちのコミュニケーションの場にもなっています。ゆったりとしたBGMも流れていて、お部屋のベッドで泣いていても授乳室に来るとピタリと泣き止む赤ちゃんが多く、夜中の赤ちゃんの「集会場所」にもなっています。

陣痛室

2室ある陣痛室のひとつを、小上がり風に改装して和室の雰囲気近づけて、今まで以上に自由なスタイルで陣痛を乗り切ってもらえるようになりました。出産に立ち会った家族の方々からもゆったり落ち着いて過ごせると好評です。

陣痛室2は今までと同じベッドのスタイルですが壁紙を張替え以前にも増して落ち着いた雰囲気になりました。



どちらの場所もお母さん教室の病棟案内時に見学いただいておりますが、見学をご希望の方には可能な限り案内いたしますので、産科スタッフに声をかけてください。